

# 南 湘 む 読

～ 少しでもためになる海の話～

vol.14  
2013.2

江の島と  
江ノ島の違い  
わかりますか？



湘南のランドマーク、江の島。特に観光面において、その価値は計り知れません。一方で私たちは観光客に何か江の島について尋ねられた時、きちんと答えられるでしょうか。ミニフォーラム、最終回は「江の島学」です。——湘南ビジョン研究会代表 片山 清宏



私たち「湘南ビジョン研究会」は毎月1回、「湘南の海を考えるとミニフォーラム」を開催しています。「読む湘南」ではフォーラムの内容を毎回フォローしていきます。

## ■講義 湘南をめぐる旅 ～湘南の由来と歴史文化を探る旅～

講師 江ノ電沿線新聞社会長  
**吉田 克彦氏**



吉田と申します。湘南あれこれとか、あまり系統立てないでお話します。

まず「湘南」という名称の由来からご紹介します。話は鎌倉時代にさかのぼりますが、当時「瀟湘（しょうしょう）八景」という中国で最も風光明媚とされる景勝地を描いた名画が数多く日本に伝わりました。湖南省洞庭湖付近の景色を指しており、中国ではもちろん、後の狩野派など日本でも盛んに描かれた画題です。この瀟湘八景と相模湾沿岸の美しさを重ね合わせ、瀟湘湖南を略して「湘南」と呼ぶようになったと言われています。ちなみに瀟湘八景になぞらえて、日本でできたのが「近江八景」や「金沢八景」です。

もう1つ、海外とのつながりをご紹介します。昔、江ノ電の鎌倉高校前に「ブライトン」という喫茶店がありました。お店の方に命名の理由を尋ねたところ「イギリスにブライトンという海水浴発祥の地があって、そこがとて湘南に似ていたので名付けました」とのことでした。湘南は日本の海水浴発祥の地ですから、確かに共通点がありますよね。

実は調べてみますと、明治4年から6年にかけてヨーロッパを視察してまわった「岩倉遣欧使節団」が、明治5年7月17日にこのブライトンを訪れています。当時のブライトンはイギリスの王侯貴族が別荘を構える保養地で、それを見た一行が「これはひとつ真似しよう」ということで湘南各地に次々と別荘が建てられていきました。今では「湘



瀟湘八景図

南邸園文化」なんて言葉もありますが、その始まりは岩倉遣欧使節団なわけですから湘南は日本のブライトンというのは、まさにその通りなんです。

ではなぜ江の島が目的だったのでしょうか。モースはその頃、進化論の観点から腕足（わんそく）動物を研究対象に選び、アメリカから腕足動物が豊富な日本にやって来ました。そこで着目したのがシャミセンガイです。この貝は6億年前の地層から今と変わらぬ姿で出てきますから、進化論の研究にはうってつけだったのではと推

モースの目的は江の島での貝研究。大森貝塚発見は偶然です

南邸園文化」なんて言葉もありますが、その始まりは岩倉遣欧使節団なわけですから湘南は日本のブライトンというのは、まさにその通りなんです。



江の島の話もしろ、とのことですので、少しモースさんのお話もさせていただきます。エドワード・シルヴェスター・モース。歴史の教科書などでは大森貝塚を発見した人物として有名

です。ですからモース＝大森貝塚という人が多いのですが、モースは別に大森貝塚を発見するために来日したのではなく、実は江の島でシャミセンガイという貝の研究をするために日本に来たのです。もっと言ってしまうと、大森貝塚は横浜から新橋に向かう汽車から外を眺めていて、たまたま見つけたものなんです。ですから江の島はもっとモースさんの歴史を大切にしなければいけませんね。

ではなぜ江の島が目的だったのでしょうか。モースはその頃、進化論の観点から腕足（わんそく）動物を研究対象に選び、アメリカから腕足動物が豊富な日本にやって来ました。そこで着目したのがシャミセンガイです。この貝は6億年前の地層から今と変わらぬ姿で出てきますから、進化論の研究にはうってつけだったのではと推



江の島弁天橋を渡つてすぐの左側に位置するモース記念碑

2012年12月13日 第14回テーマ  
**湘南・江の島の歴史文化を探る**

測されます。モースは自著の中で、当時の江の島はひと網で30個もシャミセンガイが獲れたと書いていますから、やはり研究に適した地であったのだと思います。モースはこの後、江の島に東洋で初めての臨海実験所を開設しました。

このようにモースは江の島で大きな業績を上げていますから、それをもう少し広めていきたいなと思っております。ちなみにシャミセンガイ、現在は残念ながら江の島では絶滅しています。有明海にはまだ生息しており、そちらから送ってもらって水族館の方と一緒に放流したのですが、みんな死んでしまいました。

## ■講演 江の島の歴史散策 ～美しい風景と歴史文化の再発見～

■片山 続きまして、江の島藤沢ガイドクラブ副会長の和田さんからお話をいただきます。

■講師 江の島藤沢ガイドクラブ副会長

**和田 篤氏**



■和田 江の島藤沢ガイドクラブでガイドをしております和田と申します。本日は江の島の歴史についてお話しします。

地質学的に言いますと海底火山から噴き出した凝灰砂岩が堆積したものです。元々神奈川県は海の底だったのですが、地殻変動で盛り上がり陸になったのが7万年くらい前です。その後、富士山や近辺の山が噴火していますので、それに関東ローム層が乗っかっているという感じです。対岸と切り離されて孤立した島になったのが約5万年前です。

では具体的に江の島の歴史に触れていきます。江の島というのは昔から信仰の対象でした。「信仰の島」と言われていたんですね。ですから、その信仰という観点から時代を4つに区分します。

### ■自然崇拜期

源頼朝が弁財天を勧請する以前

### ■武士の信仰期

頼朝が弁財天を勧請してから徳川家康が江戸幕府を開府するまで

### ■庶民の信仰期

江戸時代

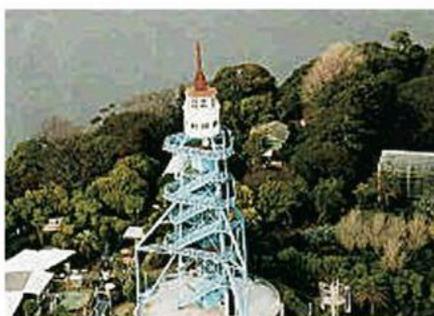
### ■観光地化

明治以降、現代まで

まずは自然崇拜ですが、サムエル・コッキング苑のシーキャンドル。灯台ですね。あれを建てる時、約9000年前、縄文時代初期の頃の住居跡が20軒くらい見つかりました。土器や石器、焦げた石なども見つっています。つまり縄文時代から江の島に人が来ていたんですね。

縄文時代初期にはもう人が住んでいました

武士がこぞって信仰



⑤江の島の旧灯台と⑥現在のシーキャンドル。2002年に旧灯台を解体、シーキャンドルへのリニューアル工事中に縄文時代の住居跡が見つかった

相模湾からはどこから見ても江の島が見えます。ランドマークという意味で、縄文人たちも来て住んでいたのではないのでしょうか。ただ江の島というのは先ほどお伝えしたように岩できていますから、保水性がありません。水がありませんから常駐はしなかったのではないかと。来てはいるけど繰り返したのではないかと思います。

以上のことはわかっていますが、残念ながらそれ以降は資料などありません。しかし、江の島は裏側が断崖になっていたりして、日本人というのは巨大なもの、異常なもの、神秘的なものに対する畏怖心が信仰の対象になり、何か自然の神様がいると思うようになります。そこに天女が舞い降りたとか龍が現れたという物語が加わって、江の島自体が徐々に聖地というか、信仰の対象になっていったのだと思います。

平安時代につくられた「江の島縁起」には、江の島の生い立ちから神社の由来が描かれています。それによると江の島には修行の場として多くの方が訪れています。700年には修験道の祖と言われる役行者（えんのぎょうじゃ）が来て、岩屋で八臂（はっぴ）弁財天を拝んでいます。814年には弘法大師が来て、岩屋に岩屋本宮をつくったと言われています。

次に武士の時代ですね。鎌倉時代の歴史書「吾妻鏡」によると、1182年に源頼朝が奥州平泉の藤原秀衡調伏のため文覚上人に命じて弁財天を江の島に勧請し、戦勝祈願を行ったと書かれています。頼朝というのは武士団のトップですから、そのトップが信仰するということは戦闘の神様として武家がみんな信仰しますよね。戦国時代に北条早雲が小田原を取ると、江の島で暴れてはいけないというお触れを出します。関東を抑えるためには江の島を抑えておくということが政治的、戦略的に意味があったのです。勝手に江の島に入ってはいけないという封書が出された時代もありました。

この時期、実際には武家ばかりでなく、農民や漁民も雨



▼岩本楼入り口 ▶辺津宮前  
にある島内の案内図



女性同伴は弁財天が焼きもちを焼く、は男の勝手な作り話

大きく姿を変えています。

江の島に3つあった御宮さんは長く岩本院が管理していました。神仏分離にともない岩本院はお寺ではなくなり、明治7年に旅館に変わります。現在の岩本楼です。この後、江の島はお土産物屋さんが増え、海水浴も盛んになって、現在のように観光地としてメジャーになっていきます。余談ですが、江の島には蕎麦屋さんや豆腐屋さんがいないんです。先ほど申しましたように、水がないから。江の島に水道ができたのは大正14年のことだったと思います。

### ■江の島 見どころめぐり

雨乞いや海の安全を願って信仰していたようです。関所を設けてお金を取ったという記録も残っています。

徳川家康が江戸に幕府を開くと、特に5代将軍・綱吉の頃まで代々の将軍が江の島を熱心に信仰していました。病気が治るようにとか安産祈願もしたようです。

江戸中期以降、庶民の信仰も一気に広がります。この時代は平和ですし、農業の安定化に伴い貨幣制度が浸透してきて生活も安定してきた。街道も整備され治安も良くなってきたので精神的に余裕が出てきて、じゃあ神様を拜んでみようじゃないかと。江戸からの江の島参拝は3泊4日。保土ヶ谷に泊まって藤沢から江の島に行き、鎌倉で泊まって金沢八景へ。最終日は川崎に泊まって川崎大師へというルートです。大山詣も加えた1週間コースも人気でした。

この頃になるとただ拜むだけではなく、精進落としもしたいとなりまして、藤沢宿というのは精進落としの場として有名になります。大山に詣でてその帰り、藤沢で精進落としとして江の島に寄って帰る。話は別ですが、江の島参拝は弁財天が焼きもちを焼くから奥さんは連れていっちゃダメですよ、と言われていましたが、あれは男が勝手につくった理屈です(笑)。要するに奥さんと来たらなにもできないということなんです。海産物が豊富な土地ですから、グルメ旅という側面もあったんじゃないでしょうか。

最後は明治以降ですが、明治維新の結果、神仏分離となりまして、仏教的なものは全部捨てなさいということで、江の島は神社だけの形になります。江の島に限らず、平安時代からこの明治まで日本は神仏習合でしたから、明治以前と以後では江の島も大

ではここからは江の島の見どころをめぐっていきます。まずは皆さんご存じの小田急片瀬江ノ島駅。竜宮城を模した全国的にも珍しい駅舎ですが、実はあれは「仮駅舎」なんです。完成した昭和4年当時、小田急とは別の鉄道会社が片瀬江ノ島—茅ヶ崎を結ぶ路線を建設する計画があり、もし開業した場合は撤去しなければならなかったからです。その海岸線を走る予定だった路線は実現しなかったのですが、片瀬江ノ島駅は建て替えることなく仮駅舎のまま現在に至っています。

駅を出て江の島弁天橋を渡って江の島へと入ります。現在の弁天橋は昭和32年に架けられました。渡ってすぐ左側の公園内にモース記念碑があります。ちなみに江の島は周囲が約5km、面積はだいたい東京ドーム8個分です。一番高いところで海拔60mほどあります。

江の島に入ってまず見えるのが青銅の鳥居です。最初につくられたのは8代将軍・徳川吉宗の頃で、11代将軍・家齊によって1821年に建て替えられました。両柱には約250名の寄進者の名前が彫られています。関東一円に寄進者がおり、江戸時代の江の島信仰がいかに盛んだったかがうかがい知れます。

そのまま参道を上っていくと、右側に岩本楼があります。江戸時代までは岩本院と呼ばれ、弁天社の本宮をあくがった一山の総別当とも言われる由緒ある院でした。神仏分離で江の島から仏教的なものを全て廃した時、多くの記念品を引き取りました。現在も残っているものはいずれも大変貴重なも



◀青銅の鳥居



▲瑞心門 ◀参道を上から見下ろす



お年寄りや子ども連れの強〜い味方、ご存じ日本初の屋外エスカレーター「エスカー」

のばかりです。明治7年に旅館に転身して、明治24年に葉山の御用邸ができるまでは宮中御用達の旅館でもありました。ですから大正天皇や昭和天皇など皇族の方々もご宿泊されています。ちなみに歌舞伎の白浪五人男に登場する弁天小僧は、岩本院の稚児がモデルとされています。

参道を上りきった先に大きな瑞心門が現れます。瑞々(みずみず)しい気持ちでお参り下さいという意味で名付けられています。かつて今の江の島のところに佐川急便の寮があった関係で、この瑞心門は佐川急便の奇進によって建てられました。

そこから先、少々しんどい階段を上っていくと、3つある江島神社の宮の1つ目、辺津宮の前に出ます。鎌倉3代将軍・源実朝によってつくられたと言われていいます。江島神社は安芸の宮島、近江の竹生島とともに日本三大弁天とされています。

次に現れるのが中津宮。平安時代の853年創建と伝えられています。江戸時代には商人や芸人からの信仰を集め、境内には江戸歌舞伎中村座、市村座から奇進された石燈籠などが残っており、当時の江の島詣の盛況ぶりがうかがえます。

もう少し階段を上り広場のような所に出ると、そこはサムエル・コッキング苑の入り口です。かつては「江の島植物園」という名でしたが、江ノ電100周年を記念し、2003年に灯台がシーキャンドルとして生まれ変わったのに合わせ、こちらも名称が変わりました。サムエル・コッキングとはイギリス生まれの貿易商で、明治2年来日。仏具を輸出してイギリスで販売し、日本では化学薬品やお酒、武器を売って財を成しました。当時、東洋最大と言われた温室を有し、れんが造りの遺構はここにしか現存しない貴重なものです。



パソコン遠隔操作事件の首輪騒動で、すっかり有名になってしまった江の島の猫

そのコッキングさん、儲けたお金はすべてイギリスの銀行に預けていましたが、1907年の大恐慌でその銀行が倒産。すべてのお金を失ってしまい、この植物園も人手に渡りますが、昭和22年に藤沢市が買い取りました。

シーキャンドルを右手に見ながら進み、奥津宮を過ぎれば岩屋はもうすぐです。岩屋の前に広がる平らな岩場が稚児ヶ淵。関東大震災で1mほど隆起してできたものです。鎌倉相承院の稚児・白菊と建長寺のお坊さん・自休が道ならぬ恋をして、白菊がこの淵に身を投げたことに由来します。

江の島散策のラスト、最奥部にある海食洞窟が岩屋です。古くは弘法大師や日蓮上人も修行したと言われ、奥行き152mの第1岩屋は富士樹海の氷穴に通じていると言いつたわれています。

片瀬江ノ島駅は実は仮駅舎



◀ 辺津宮 ▼ 中津宮



中津宮からヨットハーバ一越しに鎌倉方向を見る



中村座奇進の石燈籠



岩屋の洞窟



コッキング苑の入り口



稚児ヶ淵から富士山を望む

「江の島」と「江ノ島」の違いって？

江ノ島電鉄が「ノ」であるように、かつてはカタカナが優勢であった「江ノ島」が「江の島」になったのは1966年のことでした。藤沢市が住居表示を刷新、「藤沢市江の島」になりました。これ以降、公的な表示は「江の島」で統一されています。ただし江ノ電のように歴史のある名称の多くは現在も「ノ」が使われています。ちなみに変更前の住所は「藤沢市大字江之島」だったとか。「之」？また一つ謎が増えちゃいましたね…。

サムエル・コッキングさんは大恐慌で無一文：涙

# 全ての講師の方には 感謝します

「湘南の海を考えるミニフォーラム」全14回  
学ばせていただいた内容は「都市構想2022」に反映  
されています。 —湘南ビジョン研究会

## ◆「湘南の海を活かしたまちづくり」

第1回(11年11月)

**伊藤正侑子氏**  
一般社団法人F  
EE  
JAP  
AN代  
表理事



**片山 清宏**  
湘南ビジョン研  
究会代  
表



## ◆「湘南海岸ごみ問題への挑戦」

第2回(11年12月)

**澤田英樹氏**  
(公財)かながわ  
海岸美  
化財団  
事務局  
長



**小島あずさ氏**  
一般社団法人J  
EAN  
事務局  
長



**古澤純一郎氏**  
海さくら代表



## ◆「どうなる？湘南海岸の津波対策」

第3回(12年1月)

**熊谷兼太郎氏**  
国土交通省国土技術政  
策総合研  
究所 沿岸海  
洋研究部主  
任研究官



**渡邊伸二氏**  
藤沢市災害対策  
課長



**風間隆宏氏**  
西浜サーフライ  
フセー  
ピング  
クラブ  
理事



## ◆「湘南の海岸侵食は止められるか？」

第4回(12年2月)

**細川純一氏**  
神奈川県藤沢土  
木事務  
所 なぎさ港  
湾課長



**塩入 同氏**  
海洋政策研究財  
団研究  
員



**伏見康博氏**  
ほのぼのビーチ  
茅ヶ崎  
海岸環  
境部会  
長



## ◆「湘南の海を活かした環境教育」

第5回(12年3月)

**錦織 勲氏**  
湘南学園小学校  
教諭



**向山宏和氏**  
厚木市環境総務  
課主査



**ドジ井坂氏**  
ビーチクラブ全  
国ネッ  
トワ  
ーク理  
事長



## ◆「湘南海岸の希少な生態系を守れ！」

第6回(12年4月)

**坂本昭夫氏**  
海をつくる会事  
務局長



**工藤孝浩氏**  
神奈川県水産技  
術セン  
ター主  
任研究  
員



**清宮栄一氏**  
財団法人日本釣  
振興会  
専務理  
事



## ◆「湘南の海・浜ルールを考えよう」

第7回(12年5月)

**葉山一郎氏**  
藤沢市漁業協同  
組合組  
合長



**脇田 忠氏**  
湘南藤沢マリン  
連盟専  
務理事



**石黒雄一氏**  
神奈川県水産課  
副技幹



## ◆「湘南観光の魅力と新たな戦略」

第8回(12年6月)

**新谷雅之氏**  
一般社団法人茅  
ヶ崎市  
観光協  
会事務  
局長



**海津ゆりえ氏**  
文教大学国際学  
部准教  
授



**高橋十大氏**  
湘南ちがさき屋  
十大  
代表取  
締役



## ◆「湘南の快適な海水浴利用に向けて」

第9回(12年7月)

**大久保義雄氏**  
茅ヶ崎海水浴場  
事業協  
同組合  
理事長



**加藤道夫氏**  
日本ライフセー  
ビング  
協会支  
部部長



**鈴木 正氏**  
茅ヶ崎マリンス  
ポーツ  
連盟相  
談役



## ◆「湘南の交通政策と都市づくり」

第10回(12年8月)

**近藤修宏氏**  
県西土木事務所小  
田原土  
センター  
道路都市  
課長



**中沢俊之氏**  
江ノ島電鉄株式  
会社観  
光企画  
部課長



**平尾 博氏**  
株式会社ペダル  
代表取  
締役



## ◆「湘南の安全安心と放射能対策」

第11回(12年9月)

**岡部英男氏**  
神奈川県衛生研  
究所所  
長



**松原広美氏**  
環境NGOサーフ  
ライフ  
ンデー  
ション  
ジャパ  
ン事務  
局長



**海老名健太朗氏**  
茅ヶ崎市議会議  
員



## ◆「湘南の漁業と食とまちづくり」

第12回(12年10月)

**中村良成氏**  
神奈川県環境農政  
局水産課  
水産企画  
グループ  
リーダー



**蒲原辰弘氏**  
大磯海の会議代  
表



**原 大祐氏**  
NPO法人西湘  
をあそ  
ぶ会代  
表理事



## ◆「湘南の未来と再生可能エネルギー」

第13回(12年11月)

**藤巻 均氏**  
神奈川県環境農政  
局新エ  
ネルギー  
・温暖  
化対  
策部部  
長



**伊藤正治氏**  
NEDO新エ  
ネルギー  
部主任  
研究員



**上野ひろみ氏**  
ちがさき自然エ  
ネルギー  
ネット  
ワーク  
代表



# 藤沢朝まで飲める店

始発はおろか「笑っていいとも！」まで飲めるお店?をご紹介します



朝までごはんダイニング  
**やかん**

18:00~7:00 火曜定休  
石井 真洋(27) ☎  
織田 泰永(19) ☎

「7:00まで食事  
できます。定食なども  
できますので、ぜひご来店  
下さい。飲み物だけでも  
OKです。朝方は楽しい  
人たちと楽しい時間を」



## PHOTOGRAPHER & DJ

### TON-P

今号でvol.14の「読む湘南」。そのほとんどで表紙の写真を撮影してきたのがこちらのTON-P。実はカメラ歴まだ2年の「素人さん」だ。表紙を担当するに到った経緯や月イチ掲載の苦労などを聞いた。

—写真はいつ頃から？

「コンデジ（コンパクトデジタルカメラ）や携帯で撮るのは元々好きだったんです。2年ほど前に一眼レフを初めて買ってから、少し本格的に撮るようになりました」

—どういう経緯で依頼を？

「飲んでる時たまたま編集の方から「フリーペーパー始めるんだけど、海の写真撮れる人を探してる。」って聞いて「私、撮れますよ。」って。本当はそんなに経験なかったんですけど(笑)。できあがったvol.1見て、今更だけど私でいいの?って思いましたよ」

—反響はありましたか？

「お店なんかに置いてあるのを見て凄くうれしかったし、アンケートで「毎

回、写真楽しみです。」って書いてあったのはちょっとした感動でしたね」

—撮影に関して苦労したことは？

「1カ月って実はあっという間なんだなと(笑)。コンセプト聞いて撮って掲載、また次のコンセプト聞いて撮って…。うわー、時間ないじゃんって」

—何か自分の中で変わったことは？

「カメラを持っていないときでも「あ、この瞬間撮りたいな、とか考えるようになりました。何か私、カメラマンぶってないですか?(笑)」

—これから撮りたい写真は？

「やっぱり海です。空があって光があって水があって、写真撮り始めて一層、海が好きになった気がします。あと毎月、藤沢でDJのイベントもやっています。ぜひ遊びに来てください」

#### ■ DJ SCHEDULE ■

偶数月第4土曜日 TON×PARTY他  
22:00~ @CLUB F.A.P

偶数月 イマジンナイト  
@BAR imagine

奇数月 Inity @BAR REAL  
(ともに月1回土曜日 不定日)

## BAR imagine

18:00~5:00 無休

田村 隼人(24) ☎  
杉田 建(22) ☎

「5:00までの営業ですが、人がいる限り閉めません!ラストオーダーも取りません!朝まで元気に営業してま〜す!」



## BAR REAL

18:00~5:00 無休

佐藤 一成(28) ☎  
富澤 晃司(21) ☎

「5:00以降も美味しいお酒、楽しい音楽を流しながらお待ちします。テキーラ、キンキンに冷えています♡」



こちらの  
店員さんでもあります

## 鳥天狗 ひいと

17:00~7:00 無休

山崎 智絵(27)

「朝7:00までラーメン注文可能です。締めラーメンの方も、まだまだ飲み足りない方も、まとめてお待ちしています!」



## Cafe+Bar mott

18:00~5:00 無休

横溝 達平(37) ☎  
五十嵐 学(37) ☎

「朝まで飲める店?そういうのはもう、若い人たちにお任せしますよ。年なんで。でもね、我々も食っていかなきゃならないから…」



# 藤 沢 ◆ 美味しい湘南

Cafe Dining

## Cúbo クーボ

仲間と3人、いつかお店をやるうなと話していたら  
そのうち1人が僕らに相談もせず、3秒で物件契約を…(笑)

藤沢駅南口を出てOPAのすぐ裏、1階。そんな一等地に昨年未オープンしたのが「Cafe Dining Cúbo」だ。共同オーナーの1人、村松秀昭さん(38)は「人通りの多い立地なので、気軽に立ち寄ってもらって情報交換の場になればいいですね。場所が良すぎてプレッシャーもありますけど」と笑う。

地元出身でサーファーの村松さんは、かつて日本テレビ「進ぬ！電波少年」の「アンコールワットへの道の舗装」という企画にリーダーとして出演した経歴の持ち主。現在は番組制作会社でディレクターを務め、情報番組やバラエティなどを手がけている。取材やロケで訪れた先で良い食材に巡り合うことも珍しくないという。「広島で凄く良いカキを育てている方がいるんです。そのうちお店に並ぶと思いますよ」

その村松さんが全幅の信頼を置くのがシェフの早乙女穰さん(36)。パティシエとして料理の道に入り、その後はフレンチやイタリアンで腕を磨いてきた。イタリアンをベースに、豊富な経験を生かした無国籍な料理がメニューに並ぶ。

「まず食べていただきたいのは自家製ソーセージです。塊の肉をカットするところから全て自分で行っています。肉自体の感触を残したいのでミンチにはしません。ゴツゴツした歯触りなので、肉を食べるな～と感じていただけたらと思います」

実は早乙女さん、0～5歳をフランスで、その後9歳までを西ドイツで過ごした。だから「ソーセージは懐かしの味なんです」。なるほど、風味豊かなハーブや肉の切り方などソーセージに懸ける思いが強いのもうなずける。もう1つのおススメはレバーペースト。朝引いた鶏のレバーのみを使用するため、生臭さが一切ない。口に入れるとフワッとほめて舌に残るのは濃密なコク。レバーが苦手な人にこそ食べてほしい逸品だ。

今まで都内や横浜でキャリアを積んできた早乙女さん



ピザやパスタに加え、特に肉料理に力を入れている

にとって藤沢は初めての土地。オープンしてまだ1カ月少々だが、藤沢は「温かい街」だという。「お店とお店、お店とお客様、お店と業者さん、お店と生産者の方、そういうつながりが強く、みんな仲が良かったですね。近所のお店の方々も気軽に声を掛けてくださって、凄く助けられています」

仲が良いという意味ではこのCúbo、共同オーナーを務める村松さんと森薫雄さん(38)、三橋健一さん(38)の3人はいずれも藤沢出身の同級生。「いつか3人でお店やりたいなって話していました。そうしたらこちら



共同オーナーの村松さん

の物件のお話をいただいた途端、森くんが僕らに相談もせず3秒で契約してきてしまっ…。「えっ、もう？」って(笑)」(村松さん)

いずれは前述の広島のカキを含め、オイスターバーとしての展開を考えている。「海外産も含めていろいろな産地のオイスターをそろえて、好みに合わせてチョイスしてもらいたいですね」と村松さん。「朝までワイワイやって、この通りが活気付いたら最高です」

ちなみに村松さん、森さん、

三橋さんが立ち上げた会社名は「m<sup>3</sup>-project」。お分かりだろうか。イニシャル「M」が3人だから「m<sup>3</sup>」。なんだかちょっと、照れる。

- 営業時間 11:30～14:00、17:00～翌朝5:00  
月曜定休(月曜祭日の場合は翌火曜休み)
- 電話番号 0466-51-2421
- 住所 藤沢市南藤沢22-14 熱田ビル1階  
※土地柄サーファーが多いことから、パリのビール「ピンタン」を常備。「メニューにあったら、ちょっと「おっ！」ってなるでしょ？」(村松さん)。自慢のソーセージと合わせてがっつりいってほしいとのこと。  
ランチは自家製ハンバーグや日替わりのパスタなどが800円～。また貸切りパーティーも大歓迎で、15人～30人、2時間飲み放題で1500円～。予算や料理の内容については「お気軽にお問い合わせください」